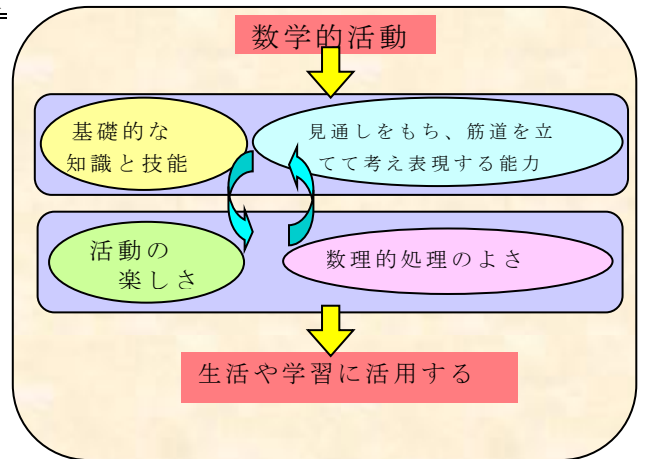


—算数科— 目標

算 数

数学的な見方・考え方を働かせ、数学的活動を通して数学的に考える資質、能力を育成する。

- (1) 数量や図形などについての基礎的・基本的概念を身に付ける。
- (2) 日常の事象を数理的に捉え見通しをもち筋道を立てて考察する力をつける。
- (3) 数学的活動の楽しさや良さに気付きよりよく問題解決する。



◎児童の状況

- 学習に意欲的に取り組むことができます。繰り返し取り組むことで基礎・基本が定着してきています。
- 学年に応じたノートを使い方、まとめ方、発表の仕方が定着しています。
- 自分の考えをノートに絵や図に表して考えていくことに慣れてきています。
- 友達の考えと自分の考えの比較や良い考えを取り入れて活用することができるようになってきています。

◎指導についての課題

- 数と計算における表現・処理能力や計算の基礎を定着させ、適切に用いることができるようにすること。
- 量と測定・図形・数量関係について、学習後も繰り返し指導し、定着を図ること。
- 課題を自分の力で読み取り、既習事項を用いて問題解決ができる数学的思考力を育てること。
- 自分の考えや友達の考えを分かりやすく言葉で説明する活動を設けること。

◎授業革新推進に向けての具体的な方策

- レディネステストを基に、習熟度別の少人数編成を工夫し、個に応じた指導を充実させます。
- 既習事項を基に思考していく中で、多様な考えを出し合い、意見を交流させながら問題を解決する力の育成を図ります。
- 具体物→半具体物→抽象という操作を通じた学習の流れを大切にし、主体的に学習に取り組めるよう体験的な活動を取り入れます。
- ICT機器の効果的な活用を工夫し、視覚的に課題を把握、解決できるようにします。
- めあてを提示し、それに対するまとめ・振り返りの時間を設定することで「わかった、できた、楽しい」が実感できる授業展開を図ります。

低学年

- ・繰り返し学習する指導
- ・認め励ます指導
- ・具体物・半具体物を用いた活動を積極的に取り入れた指導
- ・楽しい学習の工夫

中学年

- ・自ら考える場面の設定
- ・言葉の式に表す、簡単な数に置き換えて考える等の指導
- ・作業的な活動、体験的な活動を積極的に取り入れた指導

高学年

- ・自力で解決する機会の確保
- ・数直線や図などを用いた指導
- ・具体的な場面に当てはめて考える指導
- ・作業的、体験的な活動を積極的に取り入れた指導

◎言語活動の充実

- 言語、数、式、図、表、グラフを用いて考えたり、説明したり、互いに自分の考えを表現し伝え合ったりするなどの学習活動を積極的に取り入れます。
- 他の児童の考えを読み取り、自分の言葉で説明する学習活動を取り入れます。
- 線分図や数直線などの図を用いる際には、問題場面にある数量について具体物で表したものを図へと抽象化し、図についての実感的理解を育むようにします。

